CQ かすがい JA2YDX

No.634. MAR. 2024

春日井アマチュア無線クラブ

「後期高齢者の生き生きライフをめざして」　　JO21KG 北　健 司

（春日井無線クラブ JA2YDX CQ かすがい原稿　3375 字）

＜はじめに＞

JA2YDX の皆さんこんにちは。久しぶりに CQ 春日井に投稿させていただきました。今回は「後期高齢者の生き生きライフをめざして」と題しまして、サンデー毎日、年金生活の中で如何にして充実した生き生きライフを実現させるかを考えてみたいと思います。

若い方々への提言や、さらに自分自身のこの先の２０年を見据えて、人生を有意義で豊かなものとするため、また私達全員が直面する課題の一つでもあります高齢化社会への対応について、「生涯学習」という切り口でお話させていただきます。ひとかけらでも参考にしていただければ幸いです。

＜生涯学習の由来＞

世界では紛争や貧困などさまざまな理由により教育を受けられない子供たちがたくさんいますし、教育を受けられずに育った大人たちもまた厳しい環境にあります。

１９６５年、国連教育文化機関（略してユネスコ）の成人教育推進国際委員会が、人間の一生涯のあらゆる場において学習の機会が確保されることを目的に「生涯教育」として提唱したのが最初とされています。

わが国では昭和６０年の第１次臨時教育審議会答申で、高齢化社会における生涯学習社会の重要性が提起されました。春日井市でも生涯学習課の設置とともに、それまで市内の公民館などが独自に開催していたさまざまな教室や講習会などを、春日井市の生涯学習講座として扱うようになり、当時の広報では「生涯学習の広場」と言うコーナーで一元的に市民に紹介されるようになりました。

＜人口高齢化率＞

人間の一生涯は、乳幼児期、少年期、青年期、成人期、そして高齢期に大別されます。幸いにして我が国には世界に誇る義務教育制度があり、就学率、識字率ともに世界一であります。日本の問題は「高齢化」でありました。

高齢化の指標のひとつである「人口高齢化率」とは６５歳以上の人口の割合を表します。国連の高齢化の指標は７％ですが、２０２３年の日本の高齢化率は２９％で日本は世界でも類を見ない高齢化社会を迎えています。早々と世界に先駆けて到来してしまった私達の高齢化社会ではありますが、せめて「豊かな文化的先進国」と言われたいものであります。（参考：２０２３年の能登半島地震の被災地珠洲市 52%、春日井市 26%）

＜私と生涯学習との出合い＞

私と生涯学習との出合いについて触れさせていただきます。

わたしは平成６年から植物園で年４回の「バラの栽培管理講習」をお引き受けし３０年になります。当時は生涯学習とは無縁で、単なるバラの園芸講習を担当していましたが、講習を担当して間もなく植物園の園芸講習が市の生涯学習講座となったのを機会に、生涯学習を知らずして生涯学習を語るなかれと、一念発起し５０歳を過ぎて通信教育の生涯学習指導者養成講座を約２年かけて受講し、生涯学習１級インストラクターを取得しました。これはバラ栽培に限らず、さまざまな分野での生涯学習の指導者養成講座でした。

＜若い人への提言＞

子育てもひと区切りつき、生活にゆとりの出てきた中高年の生涯学習への願望は強いものがあり意欲も旺盛ではあります。高齢者学習の主なものを大別しますと、趣味や教養的なもの、伝統的な芸能や文化に関するもの、健康やスポーツに関するものなどがあげられます。しかし現実には趣味を持たず、自分の求めるものをも見出せず、場当たり的で興味本位な時間とお金を費やしている人達が以外に多いように思われます。

65 歳の定年を迎え、あるいは事業を後継者に引き継ぎ、引退してそれから何かをしようとしてもなかなか難しい。体は思うように動かず、体力は衰え、細かな字は読み辛くなります。ましてや若い人に初歩的な指導を受けることや、教えを乞うことはなかなかできるものではありません。

40 代 50 代の人たちは目の前の仕事に打ち込むことが求められています。中間管理職として、あるいは職場で重要な地位に付くことも多く、強いストレスの中にいます。家庭に戻れば子供の教育費や住宅ローンなど経済的にも大きな負担を抱えています。ダブルインカムが普通の時代となり、家庭内での役割分担もあります。仕事以外の趣味や教養に向き合うゆとりはなかなか見いだせないのではないでしょうか。ましてや退職後の充実したライフワークを考える余裕は無いのが現実ではないでしょうか。

人生 100 年の時代を迎え、退職後の 20 年 30 年を豊かに有意義に過ごすために過去にとらわれない新しい発想で老後の人生のための入り口を無理のないやり方で見つけてほしいと思います。

私の持論に「何事も１０年続ければ「サマ」になり、２０年続ければ「モノ」になる」があります。学生時代から積み上げた趣味は大切にしながらも、５０代から新しく始めることでも１０年、１５年と続けることで知識も技能もそれなりに「サマ」になり、６５歳で引退するころには仲間もでき、楽（らく）して楽（たの）しむまでになっているかも知れません。

人間社会の中で生涯学習の糧はやはり人との関わりであろうと思います。たとえそれが優れた技術や知識であっても、孤立無縁では喜びは乏しいのではないでしょうか。仮に技術は劣っていても、人々に感動や喜びを提供したり、仲間との楽しい学習は生き甲斐にもなります。単に個人の知識や技術の向上をめざすだけでなく、家族や友人、あるいはグループなどの集団学習の中で互いの人格を尊重し、高め合い、楽しみながら学習できる環境が求められているように思います。

＜さまざまな生涯学習＞

私の楽しんできた生涯学習のいくつかを紹介します。

アマチュア無線は登山や山岳スキーにトランシーバーが必需品であったため免許を取りましたが、現在でもゲレンデスキーに行くと時は、緊急連絡手段として必ず妻とトランシーバーを携帯しています。春日井無線クラブでは多くの仲間に巡り合い、日々の生活の中で新鮮な情報や活動に刺激を受けています。

バラ栽培は単に花を楽しむだけでなく、高度な栽培技術習得のほか、バラと人間との関わる歴史や関連情報も多く、一応それなりに知的で奥の深い趣味であろうと思っています。バラ好きが集まり、楽しく語らいながら情報交換したり、バラ展で多くの方に感動を提供できるのも喜びの一つであります。

能楽は日本の文化芸術の一つの極みとして、仲間とともに深く打ち込めることに限りない喜びを感じています。

スキーは今も多くの高齢者と共に楽しんでいます。今シーズンも北海道、志賀高原、蔵王など 14、5 日は滑る予定をしています。まだまだ新雪にリズミカルで美しいシュプールを描き続けたいと思っていますし、一方で加齢による身体能力低下に備え、シニアメソッドの研究を続けています。

ロータリークラブの活動も素晴らしい生涯学習であると思います。親睦と職業奉仕の原則を学び、企業倫理を高める。崇高な理念や、それぞれに素晴らしいテーマを持って事業に取り組んでいる仲間が集うロータリークラブも最高の学びの場であると思っています。

農場では四季折々の様々な作物と向き合い、栽培技術を磨き収穫の喜びを味わっています。農作業は妻と二人の強靭な基礎体力を保持するための、日々のトレーニングジムでもあります。多くの仲間たちが農場に集い、会話を楽しんでいます。

体力の低下とともに離れた世界もあります。私は長く山と向き合ってきました。多くの山岳書籍をむさぼり読んだ時期もありました。あるいは随筆にも書きとどめてきました。歳を重ね山から遠ざかった今、記録を残し、感動の場面を写真に撮り、自分の踏破した足跡を残すことの大切さを痛感しています。

＜私の考える生涯学習の意義＞

知的で文化的な生活、充実した時間、あるいは豊かな人間関係、そして生きがい等、生涯学習は私達のこれから進む高齢化社会での切り札となるのではないかと思っています。

脳の活性化のために手先を使い、日々体を動かす。あるいは人と語ること、書くこと、読むこと、考えること。さらには覚えようとすることが大切ではないでしょうか。楽しみながら真剣に取り組むことができる、そんな環境に身を置きたいものであります。

多くの仲間と共に、一人の生涯学習実践者として、伝えることの喜びと、教えられることの幸せ、そして共に学べる楽しさを大切にしていきたいと思っています。学ぶ姿勢を持ち、歳をとっても教えを乞う心の豊かさを持ちたいものであります。「はつらつと人生を謳歌したい」ものであります。

長い拙文を最後までお読みいただきありがとうございました。

生い立ち編

太古の昔

玉野地域は200万～500万年前までは、東海湖と呼ばれる湖の底でした。

それが100万～200万年前に大陸の氷河期が終わるとともに湖底が干し上がり、そこに平地が生まれました。

さらに20万年前になると内陸奥深くが海に入り込んで、“熱田海”になりました。

そして、6,000～2,000年前の縄文時代には縄文海進と呼び、丘陵地や段丘ができました。この時代に現在の春日井市の地形ができたと言われています。

玉野地域の地質は中古成層のチャートで、砂岩や岩から成り立っており、沖積平地の中間辺り一帯では古くから集落がありました。

この地質から見て丘陵地に5世紀後半から6世紀ごろに人が住むようになったと推定されています。

それと同時に高座山から出土しました石鏃(せきぞく)、石匙（いしさじ)、石錐（いしきり）が出土していますので、人が住んでいた“証し”と言えます。また、高蔵寺古墳（4、5号）も町内にありますし、当時の人達は共同で狩りをし、魚や貝、木の実を集めて生活をしていたと思われます。とくに貝は川辺近くに捨てたようです。これが“貝塚”で、この貝塚は玉野川流域にもあったと言われています。

地図に玉野の地名が登場

玉野という地名が歴史上記録されている古文書と言えば、養老元年(717年)に作成された「尾張の絵図」の中で玉野という地名がでています。

春日井市史にも「玉野地域から古墳や貝塚が発掘されています」と記載されています。

玉野の平坦地から小高い山間の玉川小学校にいく“里道”の地層で化石類（草花・貝類）が採集されていることや玉野川流域に古墳や貝塚があることを勘案しますと、太古の昔から人が住んでいたことが推定されます。

原始時代に人が住み着いた地域条件は、山の幸、川（海）の幸、地の幸（耕作）と言われているだけに“古代のロマン”を夢見ることができる地域です。

日本に文字文化が芽生えたのは、4世紀ごろと言われており、それ以前のことは伝え聞いたことで物的証拠になるものはなく、古墳や化石にしろ、大ざっぱな年代推定の域を出ておらず、考古学者や研究者も決め手になるものがあるとは言いきれませんと言っておられます。

いずれにしても、太古の昔から今日の玉野を綴ることは無理難題ですので、古文書や古書を頼りに玉野の生い立ちを辿ることにしました。

地名が絵図に登場

玉野という地名が絵図や古文書に明記されていることは、それ以前に命名されたていたという証しです。

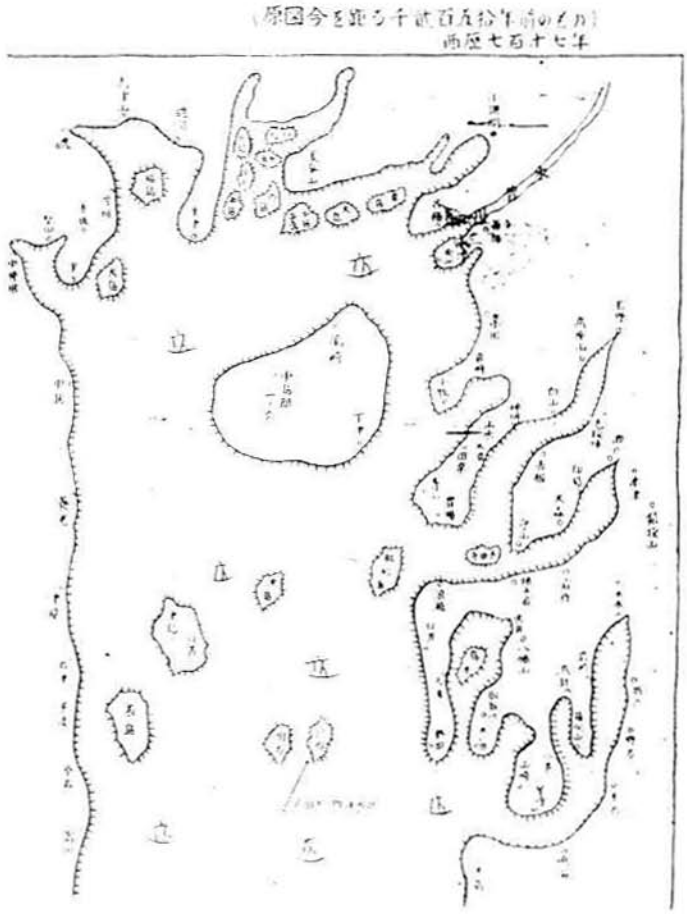
地名の由来についてはともかく、江戸時代の「尾張行状記」には、尾張国・春日井郡玉野村があり、山間に流れる川底の玉石は太陽の光でキラキラとしており、奇岩・巨岩の合間を多くの川魚が生息、風光明媚な桃源郷と記されています。

春日井郡玉野村は明治22年10月の「町村合併令」で高蔵寺・気噴・玉野・外之原・木附が合併し、春日井郡玉川村大字玉野となり、さらに明治39年（1906年）の第2次町村合併令で玉川村大字高蔵寺に周辺の村々が合併し「高蔵寺村」になり、高蔵寺村大字玉野となりました。

その高蔵寺村は昭和5年（1930年）に高蔵寺町になり、昭和33年1月に春日井市と合併したことから、玉野は春日井市玉野町に町名変更されました。

昔懐かしい玉川という地名は、玉川小学校の校名に残存しているだけです。

尾張國 養元元年之圖



啓 蟄

天空上の黄道(太陽の通り道)を、15度ずつの24等分に区切り、「**二十四節季**」とし、1年を4つの季節に分け、その4つの季節をさらにそれぞれ6つに分けて、「節または節気」と「気（中または中気とも)」が交互にくるようになっています。

二十四節季では、春は「**立春**」から始まり、3番目に「**啓蟄**」がきます。啓蟄は太陽暦の3月の、5日か6日頃にあたります。年によって1日程度前後することがありますが、今年は5日になります。

啓蟄の「**啓**」は「**ひらく、開放する、夜が明ける**」という意味。「**蟄**」は「**虫が土の下にこもる**」という意味があり、したがって、啓蟄とは、**冬ごもりしていた虫が外に這い出して来る頃**のこと言うことになります。ただし虫だけでなく、**ヘビ**や**トカゲ**、**カエル**など、冬眠から覚めるすべての生き物が含まれます。

啓蟄と言うと何故か、**カンアオイ(寒葵)**を想い出す。初めて見たのは、定光寺の林の中である。二回目に見たのが、先輩の昆虫研究室を訪ねた時で、その葉の裏に幼虫が付いており、それが、「**春の女神**」と呼ばれる、ギフチョウの幼虫だということを知り、驚いた。

ギフチョウは、岐阜県下呂市金山町で昆虫翁、名和靖氏よって発見(1883)されその名が付けられ、幼虫がカンアオイの葉を食性とし、成虫はカタクリ、スミレなどの密に群がり、広く日本各地に分布し、日本の春を代表する蝶である。

「CQかすがい634」No1をガリ版で出し時のことを想い JA2WRL局を忍びながら……(JA2SZX 岩山正光)

INFORMATIONS FROM KASUGAI CLUB

編　集　余　記

◎JA2WRL 松本 OM が 1 月 27 日 90 歳で急逝されました。OM が当クラブに顔を出されたのは 55 年ほど前かと思います。それから 2 年ほど経ったでしょうか、OM から機関誌を発行してはどうかと話が持ち上がりましたが印刷が問題でした。

金城学院の教師をしていた JA2SZX 岩山先生が快く承諾して頂きガリ版印刷で 2 年ほどやって頂きましたが、それも大変な作業だった思います。

以来 OM は機関誌の表紙の写真、毎月の挨拶、編集余記と 3 頁を欠かすことなく書き掲載し文才でもありました。

◎当局がこのコーナーを引き継ぐことになりましたが足下にも及ばない記事となります。よろしくお願いいたします。

ＣＱかすがい　　NO、634号

令和 06 年 03 月 02 日　（毎月 1 回発行）

発行　JARL 春日井アマチュア無線クラブ

発行者	JA2EQ・高蔵寺町	JA2IC・ことぶき町	JA2ARN・神屋町
	JA2CAY・小木田町	JA2DRK・守山区	JA2GBA・勝川町
編集、印刷	JA2IDZ・守山区	JA2LAZ・神屋町	JA2SZX・高蔵寺町
	JI2DQT・高蔵寺町	JK2RGS・神領町	JH2CHI・細野町
	JO2IKG・藤山台	JS2NQK・高蔵寺町	JA2WRL・高蔵寺町